

兵庫県のトゲハムシ・カメノコハムシ
(兵庫県甲虫相資料 99)

高橋 寿郎*

兵庫県に産するトゲハムシ、カメノコハムシ亜科に属するハムシ類の現在までに知られている分布状況を報告しておきたい。

前回の報告(1973)に比べて2種増え、また各種についての県下の分布がかなり詳しくわかってきている。

Subfamily Hispinae トゲハムシ亜科

1 *Dactylispa angulosa* (Solsky, 1871) ヒメキバリトゲハムシ

本種は、Solsky により *Hispa* 属として Amur から新種記載された(Horae Soc. Ent. Rossicae, 8, pp.262-264, 1871). Baly は、1874年 Hiogo, Kawachi also China から *Hispa japonica* なる種を新種として記載した(Trans. Ent. Soc. London, pp.215-216, 1874). 中條博士は、この種が表記種と同じであるとし、同時に *Hispa* 属で取扱われてきた本種を、*Dactylispa* 属として取扱われた(Trans. Nat. Hist. Formosa, 23 (128-129), p.329, 1933).

分布は大変広い。即ち、東南シベリア、満州、支那、朝鮮、日本(北海道、本州、四国、九州)。

県下でも広く分布している種であるが、必ずしも個体数は多くない。食草としてシモツケソウ、ヤマハッカ、ウツボソウが知られている。

産地:^{**}川辺郡猪名川町木間生、内馬場〔仲田, 1978〕、槻並(1ex., 2-VII-1978). 川西市笹部〔仲田, 1978〕. Hiogo〔Baly, 1874; Chûjô, 1933〕. Kobe〔1♂, 7-VI-1881, G. Lewis leg., Chûjô, 1933〕, 神戸市山の街(1ex, 5-V-1955, 2exs., 29-IV-1957), 金剛童子山(2exs., 24-VI-1956), 藍那(1ex. 14-VI-1978). 相生市三瀬山(3exs., 7-V-1972, 1ex., 6-V-1973, 3exs., 20-V-

* 現住所 652 神戸市

** 産地で「」のものは文献からの引用。()のものは筆者の採集もしくは恵享を受けたもので、現在筆者標本所有を示す。

1973). 宍粟郡音水 (1ex., 10-V-1970, 1ex., 31-V-1970, 1ex., 30-VII-1972, 1ex., 24-VI-1973). 氷上郡〔山本, 1953, 1958〕. 美方郡扇ノ山〔辻, 1963; 辻・岸田, 1972〕

2 *Dactylispa masoni* Gestro, 1923 キバリトゲハムシ

本種は, Gestro により支那 (Hangchow in Cheking) 産で命名されたものである (Mus. Civ. Genova Ann., 51, p.91, 1923). 日本からは中條博士が報告された (Kagawa Univ. Mem. Fac. Lib. Arts Educ., 2, p.10, 1958). 白水博士が, *D. flavomarginata* として日本各地からの産で新種記載された種は, 本種のことである (Sieboldia, Fukuoka, 2(1), p.53, pl.6, fig.2, 1957).

本種も分布は広い. 即ち, 南西支那, 満州, 東シベリア, 日本 (北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬) が知られている.

県下でも広く分布していると思われるのであるが, あまり採集できない. 食草としてフキ, アザミ等のキク類が知られていて, それらの表皮をかじり, 卵を葉肉内に産みつける. 幼虫は葉肉を食べて成長し, その中で蛹になる.

産地: 神戸市谷上 (1ex., 29-IV-1958). 多可郡鳥羽 (1ex., 1-VI-1975). 神崎郡大河内町川上 (1ex., 3-VI-1977, 1ex., 18-VI-1977). 宍粟郡坂の谷 (1ex., 9-VI-1973).

3 *Dactylispa subquadrata* (Baly, 1874) カタビロトゲハムシ

本種は, Baly により *Hispa* 属として Nagasaki, Hiogo 産で新種記載された (Trans. Ent. Soc. London, p.216, 1874). Weise が Harima 産で *D. adstricta* と命名した種 (Philippine Jour. Sci. 21, pp.81-82, 1922) も本種のことである.

生態, 幼虫については, 矢野氏の報文 (新昆虫, 7(3), p.35-36, 1954; 四国昆虫学会会報, 8(4), pp.126-128, 1965; 昆虫, 26(3), pp. , 1958) があると共に, 幼虫の図説もある (日本幼虫図鑑, p.512, fig.965, 1958).

県下でも普通種である. クヌギ, クリ, カシ, アヤマキなどのナラ類が食草である.

産地: 川西市菟部〔仲田, 1970, 1978〕. Hiogo〔181号, 7-VI-1881, Lewis leg., Baly, 1874〕. 神戸市御影〔関, 1933〕, 布引 (1ex., 17-V-1959), 鳥原 (1ex., 2-V-1943, 1ex., 30-V-1943, 1ex., 28-V-1972, 1ex., 3-VIII-1974, 1ex., 27-V-1981, 1ex., 9-VI-1981, 1ex., 17-VI-1981, 1ex., 16-VII-1981), 山の街 (2exs., 11-

IV-1954, 1ex., 5-V-1955, 1ex., 29-IV-1958, 2exs., 10-V-1959), 箕谷 (1ex., 30-V-1943, 1ex., 18-V-1948, 2exs., 23-V-1948), 円生山 (1ex., 15-V-1955, 2exs., 5-V-1956, 2exs., 25-V-1958, 1ex., 18-V-1958), 藍那 (1ex., 8-VI-1968), 妙法寺 (1ex., 4-X-1978). Harima [Weise, 1922]. 相生市三濃山 (1ex., 7-V-1972). 氷上郡黒井 [山本, 1953, 1958]. 豊岡市三坂 [高橋, 1975]. 養父郡氷ノ山 [高橋, 1959].

4 *Hispellinus moerens* (Baly, 1874) クロトゲハムシ

本種は, Baly により, Nagasaki および China (Shanghai) 産で *Hispa* 属として新種記載された (Trans. Ent. Soc. London, p. 215, 1874).

中條博士は, *Monochirus* 属の種として長崎を産地に記録された (Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa, 23, pp. 319-320, 1933). 中條博士は, Weise がオーストラリア産 *Hispa multispinosa* をタイプとして設立した *Hispellinus* 属 (Deutsch. Ent. Ztschr., p. 144, 1897) を *Monochirus* 属と同一と取扱われたが, その後, 中條・木元西博士により *Hispellinus* 属の種として取扱われた (Pacific Insects, 3(1), pp. , 1961). 分布は東シベリア, 支那, 台湾, 日本 (本州, 四国, 九州).

県下での分布は良くわからない. 次の記録を知るのみである.

産地: 飾磨郡家島 [上田, 1981]. 養父郡 [高橋, 1959]. 美方郡扇ノ山 [辻・岸田, 1972].

5 *Rhadinosa nigrocyanea* (Motschulsky, 1861) クロリトゲハムシ

本種は, Motschulsky により *Hispa* 属として Dauria 産で新種記載された (Schrenck's Reise Amurl., 2, p. 237, tab. 11, fig. 26, 1861). 中條博士は, Weise により東アジア産 *Hispa nigrocyanea* で設けられた *Rhadinosa* 属 (Deutsch. Ent. Ztschr., p. 318, 1905) の種として取扱われ, 日本の本州, 九州産を記録された (Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa, 23, p. 321, 1933).

東シベリア, 支那, 満州, 朝鮮, 日本 (本州, 四国, 九州) と割合広く分布している種である.

県下では中央部から北に分布している種のようなのである. 砥ノ峯の頂上にあるススキに多数いる. 食草はススキ類である.

産地: 神崎郡大河内町砥ノ峯 [木元・日浦, 1971] (2exs., 2-VII-1977, 10exs., 15-VII-1977, 20exs., 3-IX-1977, 1ex., 17-IX-1977). 朝来郡生野 (1ex., 8-VII-1956). 宍粟郡波賀町木谷 (1ex., 17-VII-1981). 出石郡出石町魚野 [高橋, 1975].

養父郡鉢伏山〔高橋, 1975〕, 杉ヶ沢〔高橋, 1975〕. 美方郡扇ノ山〔辻・岸田, 1972〕, 兎野高原 (2 exs., 29-VII-1976, Yamamoto leg.).

Subfamily Cassidinae カメノコハムシ亜科

1 *Aspidomorpha difformis* (Motschulsky, 1860) ジンガサハムシ

Motschulsky が Amur 産で *Deloyala* 属として新種記載した種である (Etud. Ent., 9, p.27, 1860). Boheman は, Hope が *Cassida miliaris* をタイプとして設立した *Aspidomorpha* 属に属せしめた (Mon. Cassid., 4, p.277, 1862). 1874年 Baly は Japan: also Manchuria and E. Siberia とし初めて日本から記録した (Trans. Ent. Soc. London., p.211, 1874). 中條博士は, この類の分類学的研究を発表されると共に, 本州での産地を示された (Sylvia, 5, p.150, p.152, 1934). 分布はかなり広く, シベリア, 東支那, 朝鮮, 台湾, 日本 (北海道, 本州, 栗島, 四国, 九州, 沖縄本島) が知られている. 本種の背部と縁部の4枝が暗褐色を呈するものを, *f. japonica* Spaeth, 1926 というが, 県下ではこのようなものは, 今のところ得ていない. 本属の日本産は, 本種と次の1種との2種のみである.

個体数はそう多くない. 食草はヒルガオが知られている. 卵は紙状の分泌物でおおわれ, 幼虫, 蛹共各齢の脱皮殻を尾端につけたり, 背中にのせて葉上で蛹化する.

産地: 神戸市御影〔関, 1933〕. 中央郡福知山 (1 ex., 20-VI-1976), 音水 (1 ex., 25-VI-1972, 1 ex., 13-V-1973). 氷上郡〔山本, 1953, 1958〕. 豊岡市〔高橋, 1975〕.

2 *Aspidomorpha transparipennis* (Motschulsky, 1860) スギバジンガサハムシ

本種を Motschulsky が Amur から *Coptocycla* 属で記載した種である (Etud. Ent. 9, p.41, 1860). Spaeth は本種を *Aspidomorpha* 属として取扱うと共に, 日本から記録した (Zool.-Bot. Ges. Wien, Verh. 64 (Sitzb.), p.129, 1914). Gorham は本州から *A. elliptica* なる種を記録した (Proc. Zool. Soc. Lond., p.280, 1885). だが, この種は *transparipennis* の異常型であると中條博士はこの類の分類学的論文の中で取扱っている (Sylvia, 5, p.150, p.152, 1934). 同時に, Weise が本州から *transparipennis* の var. *ventula* として記録した (Archiv. Naturg., 66 (1), p.295, 1900) ものも本種と同一種に取扱われた. 現在, *elliptica* は黒色型として forma として取扱われている.

こちらにも分布は広く、東アジア、滿州、朝鮮、日本（北海道、本州、九州）である。前種に似るが、やや小さい。

県下ではこちらの方が“個体数が多いようであり、広く分布している。食草は同じくヒルガオ。生態も似ている。生態については、安富博士の詳しい報文がある（応用昆虫，7(1)，pp.14-19，1951）。

産地：川西市一の鳥居〔木元・日浦，1971〕。神戸市御影〔関，1933〕。山の街（1ex，30-VI-1963），逢山岬〔岩田，1978〕。相生市三瀧山〔大野，1967〕。兵庫県福知山（1ex，20-VI-1976），音水（1ex，10-VII-1975）。氷上郡〔山本，1958〕。出石郡出石町〔高橋，1963〕。養父郡米ノ山（1ex，27-VII-1956），杉ヶ沢〔高橋，1975〕。

3 *Cassida (Alledoya) vespertina* Boheman, 1862 セダカジンガサハムシ
本種は北支那産で Boheman が記載をした（Mon. Cassid., 4, p.357, 1862）。

Baly は，1874年 Hiogo 産として Mr. Lewis から送られた唯一頭の標本について，北支那産タイア標本よりも僅かに大きく前胸背殆んど赤褐であるが，その他の点は全くよく似ていると述べている（Trans. Ent. Soc. London, p.213, 1874）。1885年，Gorham は Hiogo, Kiga & Seba を産地としてあげている（Proc. Zool. Soc. London, p.282, 1885）。中條博士はこの類の分類学的研究の中で四国から初めて記録されると共に，石垣島，宮古島，台湾の産を発表された（Sylvia, 5, pp.167-168, 1934）。

分布はかなり広い。即ち，東シベリア，支那，台湾，朝鮮，日本（本州，四国，九州，石垣島，宮古島，沖縄）が知られている。

県下での個体数はそれほど多くないようだが，分布は広いように思われる。ボタノツルが食草として知られている。卵はパラフィン状の分泌物でおおわれ，その上に糞を塗る習性があるという（竹中，

産地：三原郡論鶴羽山，鮎屋〔大野，1969〕。Hiogo〔Baly, 1874〕。神戸市丹生山（1ex，5-V-1956）。氷上郡神楽村〔山本，1953，1958〕。多可郡三谷（1ex，8-VI-1975）。神崎郡大河内町川上（1ex，7-V-1977，1ex，22-V-1977，1ex，3-IX-1977）。相生市三瀧山〔大野，1967〕（1ex，7-V-1972，1ex，20-V-1973，1ex，1-VI-1974）。兵庫県音水（1ex，25-VI-1972）。

4 *Cassida (s.str.) fusciorufa* Motschulsky, 1866 ヨモギカキノコハムシ

本種は，Motschulsky が日本産で新種記載した種である（Soc. Nat. Mosc. Bull., 39(1), p.178, 1866）。その後，Spaeth は Ussuri, Korea, Japan に分布する

としている (Best.-Tab. Eur. Col., 95, p. 36, 1926). 中條博士はさらに Japan, Korea, Formosa, Amur に分布とされている (Sylvia, 5, p. 177, 1934). Baly が "Nagasaki, Oo Oo Bay, Cost of Tartary (Mr. A. Adams) 産" と記載した, *C. consociata* (Trans. Ent. Soc. London, p. 213, 1874) は本種のシノニムである。分布は日本 (北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬), 朝鮮, 支那, 台湾である。

県下では広く分布している。食草はヨモギ類である。本種の生態に関しては大野氏の報文がある (昆虫界, 13(124), pp. 79-83, 1955)。

産地: 川西市榎部 [仲田, 1978]。神戸市六甲山 [大野, 1955], 布引 (1ex., 17-V-1959), 鳥原 (1ex., 25-VII-1949), 妙法寺 (1ex., 25-IV-1979)。飾磨郡雪彦山 (1ex., 14-VII-1957), 夢前町我孫子 (1ex., 5-VIII-1979), 家皇 (2exs., 26-V-1978)。宍粟郡福知溪谷 (1ex., 20-VI-1976), 音水 (1ex., 20-VII-1959, 1ex., 20-VII-1969), 坂の谷 (1ex., 9-VI-1973)。多紀郡篠山 [岩田, 1978]。氷上郡 [山本, 1953, 1958]。養父郡氷ノ山 (1ex., 25-VII-1959)。

5 *Cassida* (s. str.) *nebulosa* Linnaeus, 1758 カメノコハムシ

ヨーロッパ産で 1758 年 Linnaeus によって命名された種である (Syst. Nat., ed. 10, p. 365, 1758)。日本からは Nagasaki, Kawachi, Japan として記録したが, 同時に Northern Asia, the whole of Europe, and Madeira と記している (Trans. Ent. Soc. London, p. 213, 1874)。したがって旧北区に広く分布し, 日本では北海道, 本州, 粟島, 佐渡島, 四国, 九州, 対馬に産する。

兵庫県下でも普通種である。食草としてはアカザ, テンサイ, フダンソウなどが知られている。本種の生態に関しては安富氏の詳しい報文がある (昆虫界, 9(117), pp. 605-620, 1943; 応用昆虫, 4(4), pp. 218-220, 1948)。

産地: 川西市一の鳥居 (木元・白浦, 1970)。神戸市御影 [関, 1933], 布引 (1ex., 17-V-1959), 鳥原 (2exs., 18-V-1939, 2exs., 23-VII-1939, 1ex., 25-VII-1948)。飾磨郡雪彦山 (1ex., 14-VII-1957)。相生市三滝山 [大野, 1967]。宍粟郡音水 (1ex., 20-VII-1959)。氷上郡柏原 [山本, 1953, 1958]。養父郡氷ノ山 (33exs., 25-VII-1955, 7exs., 27-VII-1956, 2exs., 25-VII-1959)。美方郡陰伏山 [高橋, 1975]。

6 *Cassida* (s. str.) *piperata* Hope, 1842 ヒメカメノコハムシ

本種は Hope により支那から記載された種である (Proc. Ent. Soc. Lond., 1, p. 62, 1842)。日本からは Spaeth が報告している (Verh. zool.-bot. Ges. Wien, 64, p. 130, 1914)。中條博士はこの類の分類学的研究のなかで本州, 台湾での産地を記録された (

Sylvia, 5, pp.174-175, 1934). Kraatz が日本から記載した *Cassida rugifera* (Dtsch. Ent. Ztsch., 23, p.274, 1879), Gorham が Nikko, Sannohe, Sapporo から記載した *Coptocycla sparsa* (Proc. Zool. Soc. London, p.284, 1885)は、共に本種のことである。

分布は大変広い。即ち、印度支那、フィリピン、台湾、東シベリア、朝鮮、日本（北海道、本州、佐渡島、四国、九州、対馬、屋久島、奄美大島、沖縄）に産する。

兵庫県下でも普通種である。食草としてイノコズチ、イヌビユ、アカザ、ヒユなどが知られている。卵はハレフィン状の分泌物でおおわれる。幼虫は糞を背中にのせず、蛹は終齢幼虫の脱皮殻をつけるという（竹中、1975）。

産地：津名郡常陸寺山（1ex., 20-IV-1974）。川西市一の鳥居〔木元・日浦、1971〕。神戸市御影〔関、1933〕、希引（1ex., 17-V-1959）、摩耶山（1ex., 15-VI-1979）、鳥原（1ex., 23-VII-1939, 4exs., 30-V-1943, 1ex., 5-VI-1943, 1ex., 15-VI-1952, 2exs., 25-VI-1965, 1ex., 3-VII-1966, 1ex., 24-IV-1966, 1ex., 17-VII-1966, 2exs., 14-V-1973, 2exs., 9-VI-1974, 1ex., 15-VII-1980）、山の街（1ex., 7-VI-1959）、箕谷（5exs., 30-V-1943）、藍那（2exs., 5-VI-1978, 1ex., 27-VI-1978）、有馬（2exs., 14-V-1967）、妙法寺（1ex., 26-VII-1978, 4exs., 20-II-1979）。節摩郡雪彦山〔木元・日浦、1965〕。神崎郡笠形山（1ex., 12-VI-1975）、大河内町川上（1ex., 7-V-1977, 1ex., 4-VI-1977）。多可郡鳥羽（1ex., 1-VI-1975, 1ex., 5-VII-1975）。相生市三瀬山〔大野、1967〕。佐用郡船越山〔木元・日浦、1965〕。宍粟郡音水（1ex., 20-VII-1959, 1ex., 20-VII-1969, 1ex., 10-V-1970）。氷上郡〔山本、1953, 1958〕。出石郡出石町〔高橋、1963〕。城崎郡金山峠〔高橋、1975〕。養父郡氷ノ山（1ex., 25-VII-1959）。美方郡湊坂（1ex., 17-X-1978）。

7 *Cassida* (s.str.) *rubiginosa* Müller, 1776 アオカメ / コハムシ

本種はヨーロッパ産のもので命名された種である（Zool. Danmark Prodr., 65, 1776）。Motschulsky は日本から *Cassida rugosopunctata* なる種を記載した（Bull. Soc. Nat. Mosc., 39(1), p.177, 1866）。Spaeth は初め、*rugosopunctata* と *rubiginosa* の変種とし（in Junk, Col. Cat., 62, p.109, 1914）、後には亜種として取扱った（in Winkler, Cat. Col. Reg. Palaearc., p.1358, 1930）。中俣博士は異常型として取扱われた（Sylvia, 5, pp.177-178, 1934）。

安富博士は、ヨーロッパの原種が日本に産すること、*rugosopunctata* との区別があまりはっきりしないこと等から、種 *rubiginosa* として扱うことを提唱されている（昆虫, 19(3-4), pp.22-23, 1952）。分布はしたがって旧北

区に広く産し、日本では北海道、本州、佐渡島、四国に分布している。

兵庫県下ではやや山地性のようで、南側の海岸線沿いでは全く見られない。県の中央部近くから北に広く分布している種のようなのである。食草はアザミ類。卵はパラフィン状の分泌物で'お'おわれ、幼虫は糞を背負い、蛹化も糞をのせてする。

産地：多可郡鳥羽 (1ex., 29-IV-1972). 宍粟郡吉水 (2exs., 11-VI-1972, 2exs., 24-V-1973, 1ex., 15-VII-1973, 3exs., 21-V-1979), 赤面 (2exs., 3-VI-1979), 坂の谷 (1ex., 9-VI-1973). 氷上郡神楽 [山本, 1953, 1958]. 城崎郡三川山 [高橋, 1975]. 養父郡氷ノ山 [中根, 1953; 辻, 1972; 高橋, 1975]. 美お郡扇ノ山 [高橋, 1975].

8 *Cassida* (s.str.) *vibex* Linnaeus, 1767 セスジアオカメノコハムシ

本種も Linnaeus によりヨーロッパ産で記載された種である (Syst. Nat. ed. 12, p. 575, 1767). 本種を日本に産するとされたのは、安富博士が初めてである (新昆虫, 2(10), p. 14, 1949). 分布は旧北区と日本の本州である。辻氏が氷ノ山で採集された 1ex. を検した。近似種との区別については安富博士の区別点によった (昆虫, 19(3-4), pp. 23-24, 1952).

食草はアザミ類が知られているが、県下での記録は氷ノ山の 1 例があるだけである。

産地：養父郡氷ノ山 [1ex., 11-VI-1972, K. Tsuji leg., 辻, 1972].

9 *Cassida* (*Cassidulella*) *vittata* Villerus, 1789

スジミドリカメノコハムシ

本種は、ヨーロッパ産にもとづいて Villerus が記載したものである (Linn. Ent., 1, p. 93, 1798). 日本からは Spaeth が 1914 年、旧北区、京都を産地として報告したのがあるだけで (in Junk, Col. Cat., 62, 1914), 木元博士もこの記録以後日本から知られていない種としておられる (Jour. Fac. Agr. Kyushu Univ., 13(4), pp. 657-658, 1966).

県下から次の記録があるが、どうも良くわからない種である。

産地：氷上郡芦田 [山本, 1953, 1958].

10 *Cassida* (*Odontionycha*) *erudita* Baly, 1874 ミドリカメノコハムシ

本種は Baly が Yokohama 産でもって (collected by Mr. Pryer) 記載した種である (Trans. Ent. Soc. Lond., p. 212, 1874).

安富博士が広島県の三段峠、群馬県清水峠をタイプとして命名された *C. viridis japonica* (Kontyu, 19(3-4), p.93, 96, 98, fig. 1, 1952) も本種のことである(木元, 1966).

県下での記録が次の如くあるが, どのような産出状況か良くわからない種である.

産地: 養父郡氷ノ山〔辻, 1972〕. 美万郡扇ノ山〔高橋, 1975〕.

11 *Cassida (Taiwania) sigillata* (Gorham, 1885)

イカリモンカメノコハムシ

本種は, Gorham により Kiga, Okayama 産で *Coptocyla* 属として命名された (Proc. Zool. Soc. Lond., p.284, 1885).

中條博士の論文では *Metriona* 属に取扱われている (Sylvia, 5, pp.159-160, 1934).

Gressitt 博士が支那のこの類の研究を発表されたなかで, 分布を日本, 東支那, 台湾として *Cassida (Taiwania)* 属に取扱った (Proc. Calif. Acad. Soc., ser. 4, 27, p.501, 1952).

県下では個体数の少ない種である.

産地: 相生市三濃山〔大野, 1967〕(1ex., 4-V-1974). 氷上郡相原〔山本, 1953, 1958〕. 城崎郡三川山〔高橋, 1976〕.

12 *Cassida (Taiwania) versicolor* (Boheman, 1855)

セモンカメノコハムシ

本種は Boheman により支那産で *Coptocyla* 属として記載された (Mon. Cass., 3, p.414, 1855). さらに 1862 年に *C. Thais* なる種を北支那から記載しており (Mon. Cass., 4, p.463, 1862), この種を Baly は Japan から記録した (Trans. Ent. Soc. Lond., 1874). Kraatz は Japan から *Coptocyla curucifera* なる種を記載している (Deutsch. Ent. Ztschr., 23, p.271, 1879). Spaeth は *Thais* を *Metriona* 属に扱い, Japan を分布に記録した (Best-Tab. eur. Col., 115, p.65, 1926). 中條博士は *curucifera* を *M. Thais* の亜種に取扱われた (Sylvia, 5, pp.160-161, 1934). Gressitt 博士は上記全部を *Cassida (Taiwania) versicolor* に統一された (Proc. Calif. Acad. Soc., ser. 4, 27, 1952).

分布は広く東シベリア, 南支那, ハイナン, トンキン, ビルマ, 台湾, 日本 (本州, 佐渡島, 四国, 九州, 沖縄, 石垣島) に産する.

兵庫県下でも広く分布している。食草はサクラ類、リンゴ、ナシ、ナンキンナシカマド等が知られている。

産地：三原郡鮎屋〔大野，1969〕。川西市一の鳥居，笹部〔仲田，1970，1978〕。神戸市山の街（1ex.，10-VII-1949），箕谷（1ex.，16-V-1948，1ex.，24-VI-1948），丹生山（1ex.，15-V-1955）。相生市三瀬山〔大野，1967〕。宍粟郡音水〔木元・田浦，1965〕（1ex.，30-VII-1972）。氷上郡〔山本，1953，1958〕。出石郡出石町〔高橋，1963〕。豊岡市愛宕山〔高橋，1975〕。城崎郡城崎（1ex.，17-V-1970）。養父郡氷ノ山（1ex.，24-VII-1955）。美方郡扇ノ山〔辻，1963；辻・岸田，1972；高橋，1975〕。

13 *Thlaspidia biramosa japonica* Spaeth, 1914 イチモンジカメノコハムシ
本亜種は，Spaeth が日本産で *Thlaspidia japonica* として独立種として記載したものである（Suppl. Ent., 3, p.17, 1914）。中條博士は独立種として取扱っておられる（Sylvia, 5, pp.156-157, 1934）。

その後，Gressitt 博士は *Thlaspidia biramosa* の亜種として取扱われ（Proc. Calif. Acad. Soc., ser.4, 1952），現在に到るもそのように取扱われている。この亜種の分布は満州，朝鮮，日本（本州，四国，九州）である。

兵庫県下では普通に産する種である。食草はムラサキシキブ，ヤブムラサキが知られている。幼虫も蛹も糞を背負う。糞は糸状に突出している。

産地：洲本市先山〔大野，1969〕。川辺郡猪名川町民田〔仲田，1970，1978〕。川西市笹部，芋生〔仲田，1978〕。神戸市六甲山（4exs.，8-V-1955，2exs.，21-IX-1957），希引（7exs.，17-V-1959），二十歩（1ex.，8-IX-1957），鳥居（2exs.，9-V-1943，1ex.，28-V-1972，1ex.，23-VII-1972，1ex.，26-V-1974，1ex.，1-V-1977），丹生山（1ex.，5-V-1956，1ex.，18-V-1958）。神崎郡笠形山（1ex.，12-VI-1975），大河内町川上（1ex.，7-V-1977，3exs.，14-V-1977，1ex.，4-VI-1977）。多可郡鳥羽（1ex.，1-VI-1975，1ex.，5-V-1975）。相生市三瀬山〔大野，1967〕（1ex.，3-V-1962，1ex.，7-V-1972，2exs.，6-V-1973，5exs.，20-V-1973，2exs.，28-IV-1974，3exs.，3-V-1974，4exs.，12-V-1974，2exs.，18-V-1974，1ex.，16-VI-1974，2exs.，1-VI-1974，5exs.，8-IV-1974）。宍粟郡福知谷（1ex.，20-VI-1976），音水（1ex.，20-VII-1959，1ex.，10-V-1970，4exs.，31-V-1970，1ex.，4-V-1972，2exs.，21-V-1972，1ex.，30-VII-1972，1ex.，13-V-1973，1ex.，3-VI-1973，2exs.，15-VII-1973）。氷上郡〔山本，1953，1958〕，相原（1ex.，10-V-1953）。城崎郡蘇武岳〔高橋，1975〕。養父郡氷ノ山〔中根，1958〕（1ex.，25-VII-1955）。美方郡扇ノ山〔辻，1963；辻・岸田，1972；高橋，1975〕。

14 *Thlaspidia lewisii* (Baly, 1874) ルイスカメノコハムシ

本種はBalyによりHiogo産で *Coptocyla* 属として新種記載された(Trans. Ent. Soc. Lond., p.214, 1874). Spaeth は日本, 朝鮮, ウスリーを分布地をあげて *Thlaspidia* 属に取扱った (Best.-Tab. eur. Col., 115, pp.62-63, 1926). 中條博士は北海道, 本州産を記録された (Sylvia, 5, p.156, 1934). 分布は東シベリア, 東支那, 朝鮮, 日本(北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬)である.

県下ではそう多くいる種ではないが, 広く分布しているようである. 食草はコバノトネリコ, イボタノギが知られている.

産地: 川辺郡猪名川町槻並中〔仲田, 1979〕. Hiogo〔Baly, 1874; Gorham, 1885〕. 神戸市金剛童子山 (1ex., 24-VII-1958), 葦郡 (1ex., 8-VI-1978, 1ex., 19-VIII-1978), 有馬 (4exs., 14-V-1967), 相生市三濃山 (1ex., 18-V-1974), 宍粟郡音水 (1ex., 31-V-1970, 1ex., 3-VI-1973), 美方郡扇ノ山〔辻・岸田, 1972〕.

以上兵庫県産トゲハムシ亜科5種, カメノコハムシ亜科14種の県下の分布を記録した. 本州に分布している種としてはトゲハムシ亜科で他に2種いるが, それらはあまり個体数の多い種ではない. カメノコハムシ亜科の方も, 本州に分布しているとされている種で兵庫県に産しない種が10種いる. これも詳細に検討してみるに, そのうちの6種は1度だけ日本(本州)から記録されていてその後全く得られていないもの, したがって果たして日本に産するかどうか大変疑わしい種, または固定間違いの種のようなものである. 後の4種は長野県の高山地帯とか東北地方に産する種である. 本州に産する大体の種は兵庫県にも分布しているといえそうである. ここに記録した大部分の種は中根博士により図説されている (原色日本昆虫大図鑑, 第2巻(甲虫編), 1963), 分類学的報文ではないので種の形態的記述は一切省略させて頂いた. まだまだ調査不充分でもあるし, 分類についてもはっきりしない点もあり, 記録等も再検討しなくてはならない種もある. これらについてはできるだけ調査を続けて一日も早く追加発表できるように努力したいと思っている.